九州伝産の旅 vol.5

2022年

波佐見焼 藍染窯

<窯元紹介>

初代の樋渡常俊さんが生地屋から 転身し、平成3年1月に創業。現 在は2代目の常司さんを窯主として、12名体制で運営。

2018 年 5 月にカフェ&ショップ 「No.1210(ナンバーイチニイチゼロ)」をオープン。また、2020 年 4 月に自社内に体験やイベントができるオープンラボを開設。

は さ み やき あいぜんがま

波佐見焼 藍染窯

心地良い職場環境を作り、波佐見焼に関わる人達の"Good Life"を作り出す

波佐見町でおしゃれなカフェ&ショップが一際目を引く藍染窯さん。明るい雰囲気の工房では職人さん達がいきいきと作業されています。2 代目の樋渡常司さんにお話を伺いました。



藍染窯のスタッフ



丁場見学もできる丁房



カフェ&ショップ 「No.1210」

■波佐見焼の歴史・特徴

波佐見焼の始まりは 1590 年代頃、下稗木場窯で焼かれた陶器の碗皿や甕などの日用品であったと考えられます。その後、磁器の生産に転換し、1630 年代から富裕層向けの青磁を製作し、東南アジア等の海外にも輸出されました。江戸時代からは「くわらんか碗」をはじめとする庶民向けの安価な食器が製造され、世界最大級の窯で大量生産・分業化を徹底し、伊万里港から船で全国に流通しました。また、「コンプラ瓶」と呼ばれる瓶に醤油や酒を入れて、海外に輸出されました。

波佐見焼の特徴は、透けるような白磁の美しさと、呉須(藍色)で絵付けされた「染付」の繊細で深い味わいにあります。古くから分業制で効率よく製品を作ってきた波佐見焼は、使い手の視点が重視され、形状も絵柄も自由にデザインされていることから、今もなお、多くの人々の共感を得ています。

Q. 藍染窯の特徴は?

<u>ヒト、モノ、コトを通して笑顔を作り出すメーカー</u>として、年代、性別を問わず幅広く好まれる 色味と個人のライフスタイルに合った素朴で温かみのある器をコンセプトにしています。

「ブロンズ」シリーズは焦げ方がサビっぽく、青銅器のイメージで製作しており、藍染窯の特徴的な商品となっています。

焼き物はどうしても B 級品が出てしまい、これまで廃棄物として処分していましたが、ちょっとした欠点も「個性」として発信することで、<u>お客様に一つ一つの違いを楽しんでもらう</u>ことを心がけており、結果的に廃棄物を出さないような流れを作っていきたいですね。



ブロンズシリーズ







藍ブルーシリーズ

Q.工房等、とてもおしゃれな雰囲気ですね。

オープンファクトリーにも力を入れており、窯の中に入って SNS 用の写真を撮ることができます。その他にもおしゃれなユニフォームを作ったり、カフェのような音楽をかけたりと、職人さん

<u>たちの「働きやすさ」も重視</u>しています。

実は、波佐見焼では生地屋さんの減少が一つの課題です。工房の一部は若手の生地屋さんにスペースを貸し出し、仕事の発注も行いながら、ゆくゆくは独立していただくような仕組みを作っています。



古着をリメイクした制服

Q.ショップ&カフェをオープンした理由は?

直接販売し、つくり手として「表現する場」を設けたかったからですね。たまたまコーヒーのプロフェッショナルと接点があり、器との組み合わせでショップ&カフェをオープンしようということになりました。

開店してから様々なことが動き出したと感じています。異業種の人脈が広がり、そこから新たなアイデアが出てくるようになりましたし、ショップを作ったことで、お客様の生の声を聞くことができ、つくり手としての思いも伝えられるようになりました。「藍染窯」としてのブランディングにも着実につながっていると手応えを感じています。

カフェのファンが窯元に就職してくれるなど、予想外の嬉しい展開もありました。





Q.オープンラボではどのようなイベントを行っているのですか?

お客様から「オリジナルの器を作りたい」というご要望があり、気軽に来て気軽に器を作れる場所、特に若い人がとっつきやすい場所を作りたかったことがオープンラボを始めたきっかけです。絵付け体験はもちろんのこと、「ものづくり」をテーマに、器に限らず様々なジャンルのものづくり企業を呼んでワークショップ等を実施したりしています。最近は印刷会社さんを呼んでエシャツづくりも実施して地域の皆様にも楽しんでいただけたと思います。



体験の様子



profile

窯元名

(有) 藍染窯

場所

長崎県東彼杵郡波佐見町無田郷 1026-3

電話

0956-59-9498

定休日

- ・カフェ&ショップ「No.1210」 <u>木曜日、</u>年末年始
- ・工房土日祝日、夏季休業、年末年

Web サイト

始

https://aizengama.com

Q. 藍染窯として大切にしていることを教えてください。

波佐見焼を通して、関わる人すべての"Good Life"を作り出したいですね。 "Good Life"とは、豊かな食生活を送ることであり、心地よく働くことでもあります。自分らしい生き方を体現し、気持ちに余裕ができたとき、自分だけでなく周りの人のこともきっと笑顔にできます。 人と人とを繋ぎ、新しいヒト、コト、モノを生み出すような存在でありたいと思っています。



Q.今後の展開は?

10年先を見据えて「サステナブル」な焼物産地を目指していきたいですね。例えばガス 窯から電気窯へ移行することで、CO2排出削減を目指し、さらにカーボンニュートラル対 策として、再生可能エネルギーの活用等にも取り組んでいきたいと考えています。

Q.波佐見焼の魅力、波佐見町の魅力を教えてください。

波佐見焼は<u>伝統に固執していない</u>ところが魅力でもあります。縛られていないので、<u>時代</u> <u>に合った焼き物</u>を作ることができます。また、<u>若手が元気でチャレンジ精神</u>があり、窯元同 氏もライバルという感じではなく、お互いに良い刺激になっています。

最近は<u>焼き物の直営店に公園や雑貨店、カフェなどを併設したお店も次々とできていて、楽しい町</u>になっていますよ。1日ではまわりきれない魅力があると思います。

若いスタッフが多く、明るくオープンな印象の藍染窯さん。良い商品・サービスを提供するためにも、まずは従業員の働きやすさを実現するという考え方はとても素敵だと思いました。また、ショップ&カフェやオープンラボの開設など、アイデアを次々と実行に移されているのがとても印象的でした。これからもものづくりの発信拠点として新たな展開が期待できそうです。